

# 富士を描いた名品集

その魅力は、今や世界規模。  
時代を、国境を越えて  
愛される山、富士。

日本を代表する名峰・富士山。  
2013年に世界文化遺産に登録  
され、美しく雄大な姿は今や日本  
人だけでなく世界中の人々を魅了  
し、多くの外国人観光客が富士山  
を訪れている。これまで多くの芸  
術家たちが、数多くの絵画や文学  
の中にこの名峰を登場させてきた。  
『美術屋・百兵衛』（32号・静岡文  
化考）に続いて作家たちが描いた  
富士の名品をここでも紹介しよう。



## 横山大観

不盡山  
132.5 x 50.2 cm / 絹本墨画  
制作年不詳 / 富士吉田市蔵

—— 大家も庶民も眺めた名峰。

日本画の大家として名高い山元  
春挙。竹内栖鳳とともに明治後期  
の京都画壇を代表する彼は、壮大  
な風景画を得意とした。風景を描  
くため、取材時にカメラを持参し  
た初めての人物としても知られ  
る。明治から大正・昭和に亘って、  
第一線で日本画を革新し続けた横  
山大観は晩年、画題として富士を  
数多く描き、絶筆も富士山だった。  
時代を遡るが、次頁から葛飾北  
斎『富嶽三十六景』、歌川広重『不

二三十六景』を全点掲載した。北  
斎の『富嶽三十八景』は富士講（富  
士への参詣登山を主要な目的とし  
たグループ）に入り、富士巡礼を  
目指す多くの民衆に爆発的にヒッ  
ト。10図を足して四十六景にまで  
なった。また『不二三十六景』  
は広重が晩年に手がけた初めての  
富士の連作だ。彼らの斬新な表現  
が海を渡ってゴッホやモネに影響  
を与えるまでになったのは、有名  
な話である。

## 山元春挙

裾野の秋  
120.0 x 35.3 cm / 絹本彩色  
制作年不詳 / 富士吉田市蔵



# part.2